

平成30年度補助金モニタリングシート

1 補助金等の概要

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|--------------------------|--------|-------|--------------------------|------|--------|--------------------------|----|--|
| 部 課 名 | 福祉保健部介護福祉課 | | | | | | | | | |
| 予 算 科 目 | 款 | 項 | 目 | 大 事 業 | 大 事 業 名 称 | | | | | |
| | 03 | 01 | 02 | 005 | ミニディホーム支援事業 (社会福祉協議会補助金) | | | | | |
| | 中事業 | 中事業名称 | | | 節 | 細節 | 細々節 | 細々節名称 | | |
| | 01 | ミニディホーム支援事業 (社会福祉協議会補助金) | | | 19 | 03 | 01 | 社会福祉協議会補助金 (ミニディホーム支援事業) | | |
| 補助金等の名称 | ミニディホーム支援事業補助金 | | | | | | | | | |
| 補助金等の区分 | 行政補完的補助金 | ○ | 政策的補助金 | | その他 | | 交付開始年度 | 平成14 | 年度 | |
| 補助金等の形態 | 個人補助 | | 事業補助 | ○ | 団体運営補助 | | その他 | | | |
| 支出先名称 | 東久留米市社会福祉協議会 | | | | | | | | | |
| 会 計 年 度 | (予算・決算) 額 | 財源内訳 | | | | | | | | |
| | | 特定財源 | | | | | 一般財源 | | | |
| | | 国庫支出金 | 都支出金 | その他 | 特財に伴う一般財源 | 一般財源 | | | | |
| 30年度 | 835 | | 417 | | | 418 | | | | |
| 29年度 | 835 | | 417 | | | 418 | | | | |
| 根拠法令等 (名称及び条文の抜粋) | | | | | | | | | | |
| 法 令 等 | 東京都高齢社会対策区市町村包括補助事業実施要綱 (平成19年5月11日付福保高在第28号) | | | | | | | | | |
| 市条例・要綱等 | 東久留米市ミニディホーム支援事業補助金交付要綱、第7期東久留米市高齢者福祉計画・介護保険事業計画 | | | | | | | | | |
| 目的及び効果 | 高齢者等の生きがいづくり及び閉じこもり防止のために継続的に集う活動を支援する。 | | | | | | | | | |

2 共通業務運用指針に示す既存補助金制度の見直しに関する事項

| | | | | |
|--|----|---|-----|---|
| 補助金等の支出が客観的に見て公益上妥当でない | はい | | いいえ | ○ |
| 社会背景等の変化により、補助対象となっている事業が市の役割や守備範囲を越えてしまっている | はい | | いいえ | ○ |
| 支出の根拠が明確でない | はい | | いいえ | ○ |
| 補助対象事業がすでに当該団体の事務として同化・定着している (注) | はい | ○ | いいえ | |
| 類似の事業が民間等で行われている | はい | | いいえ | ○ |
| 交付の期間が継続して3年以上である (注) | はい | ○ | いいえ | |
| 国・東京都等の制度に連動した補助金制度で、終期をその基となる制度に合わせていない | はい | | いいえ | ○ |

注：複数の団体が存在する場合、1団体でも該当があれば「はい」の扱いにしている。

3 業務委託について

| | | |
|----------|----|---|
| 業務委託の可能性 | 有り | |
| | 無し | ○ |

4 所管課所見欄

| |
|---|
| 上記2及び3に対する所管課見解 |
| この事業は、市民が地域の福祉的な課題に関心を持ち、その解決に向けて協力し合いながら「より安心して心豊かに暮らせる地域づくり」に向けて取り組む活動を行う団体に対して支援する、東久留米市社会福祉協議会の事業である。市では、第7期東久留米市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の期中 (平成30年度～32年度) においては、福祉・介護人材の育成・確保の一環の事業として、引き続き、この事業を推進・支援することとしている。このように地域福祉の観点から補助金を交付するものであり、業務委託にはなじまない性質のものとする。 |
| 31年度以降の方向性 |
| 高齢者が身近な地域で暮らすために、地域の支え合いの仕組みとして必要な事業であるため、今後とも補助を継続していく。 |